

1. 令和3年産水稻 2. 田植までに行う作業

1) 圃場の準備 ~栽培管理のしやすい圃場づくり~

(1) 耕耘の注意点 ※圃場が乾いた日を逃さず作業しましょう！

- ① 耕す深さは15cmを目安として、毎年踏み固めた田面を崩す。
- ② PTOは1~2速で、ロータリーを緩やかに回転させ土塊を大きくする。
- ③ トラクターの走行方向に注意し、圃場に凹凸を作らないようにする。

・ 作土が盛り上がった所は除草剤の効きが悪くなり、雑草が残りやすくなります。耕耘作業時に圃場を平らにし、田植後の除草効果を高めましょう。

(2) 排水作業 ※水の溜まりやすい圃場限定

畦畔沿いに溝を掘る等により、圃場を乾燥させ耕起しやすい状態にする。

ポイント 田植直前では間に合わない作業を、前もって確実に行いましょう。

2) 育苗期間中の管理 ~田植後の生育は、苗の出来・不出来で決まります！~

(1) 温度管理 ※適温を保ち、ムレ苗・徒長苗・病気発生を防止！

苗の生育に応じた適温

① 出芽期
(幼芽長=出芽後の苗長が0.5~1cmの頃)

30~32℃に保つ。

② 緑化期
(苗長が3~4cmの頃)

22~25℃に保つ。
※夜温が10℃以下となる場合は保温！

③ 硬化期
(苗が緑色となった頃)

基本的に屋外で、保温せず図1の状態まで育成
※気温が12℃以下となる場合は保温！

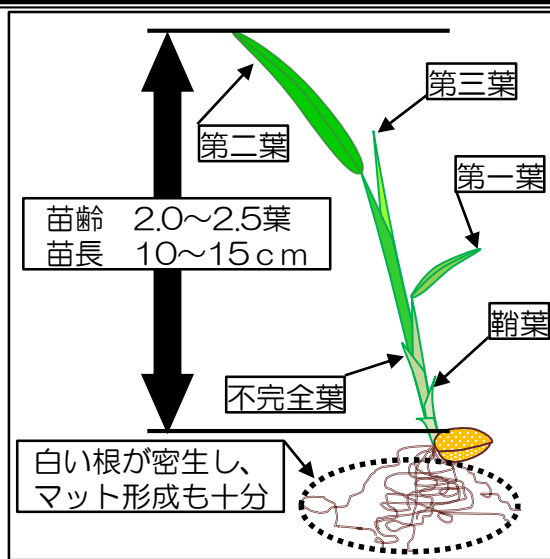


図1 適切に育成された苗

(2) 水管理 ※「十分な水を、必要な時間にやる」ことが基本！

- ① 灌水は日中の気温が高い時間帯 (図2参考) に
午前1回 (午前10時頃)
午後1回 (午後2時頃)
の2回行うことが基本

※平坦地では、晴天の日には間にもう1回灌水する必要がある場合があります。

- ② 夕方以降は苗が余り水分を必要とせず、苗床の湿度が高くなるので避ける。

ポイント 温度と水分を適切に管理し、病害虫や気象変動に強い苗を作りましょう！

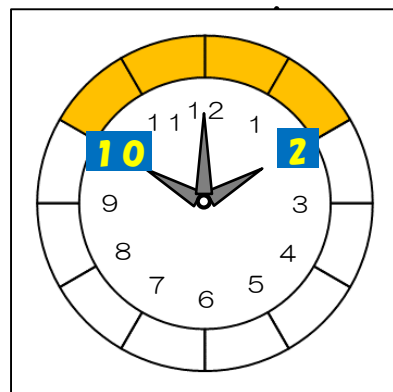


図2 灌水する時間